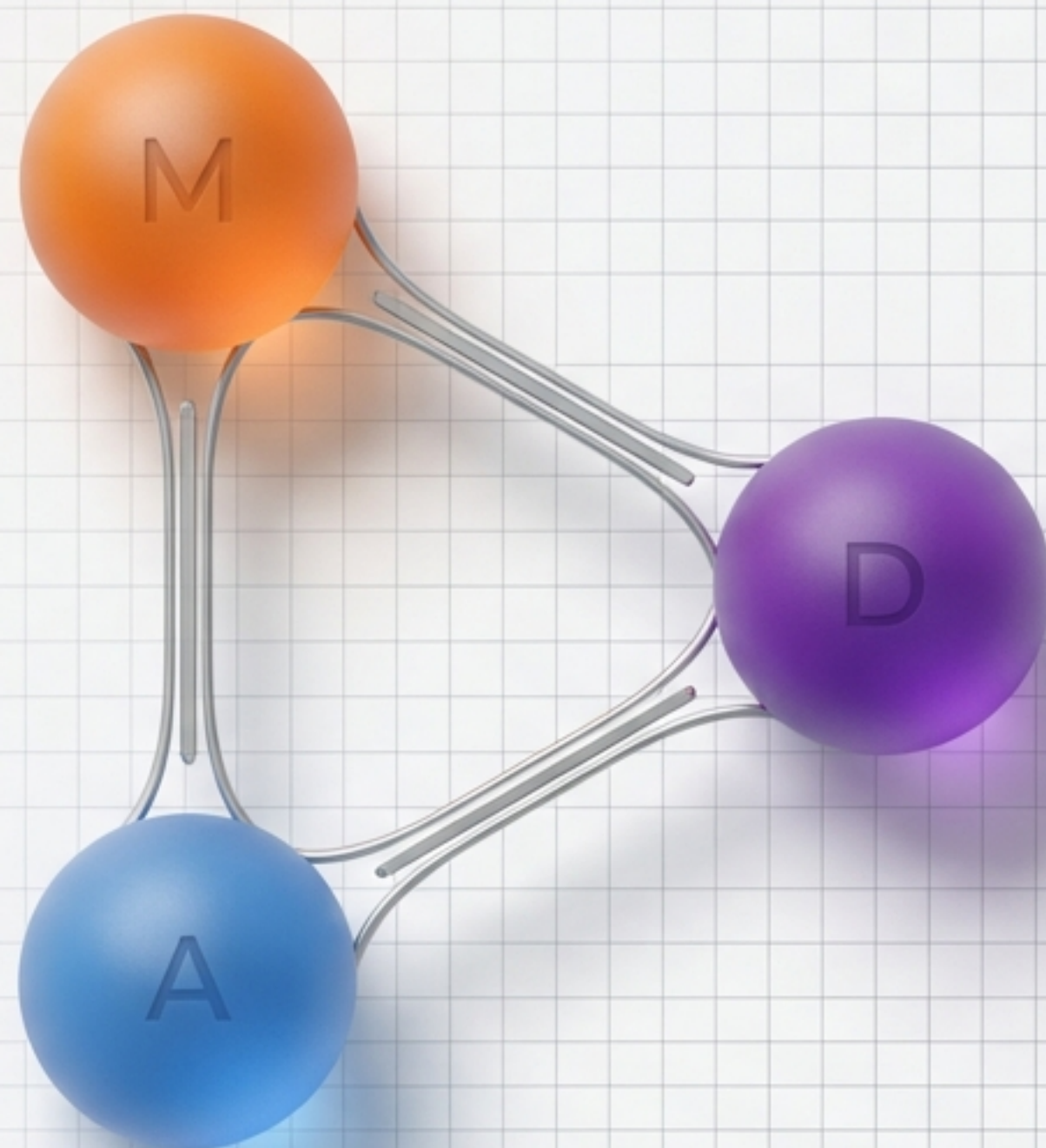
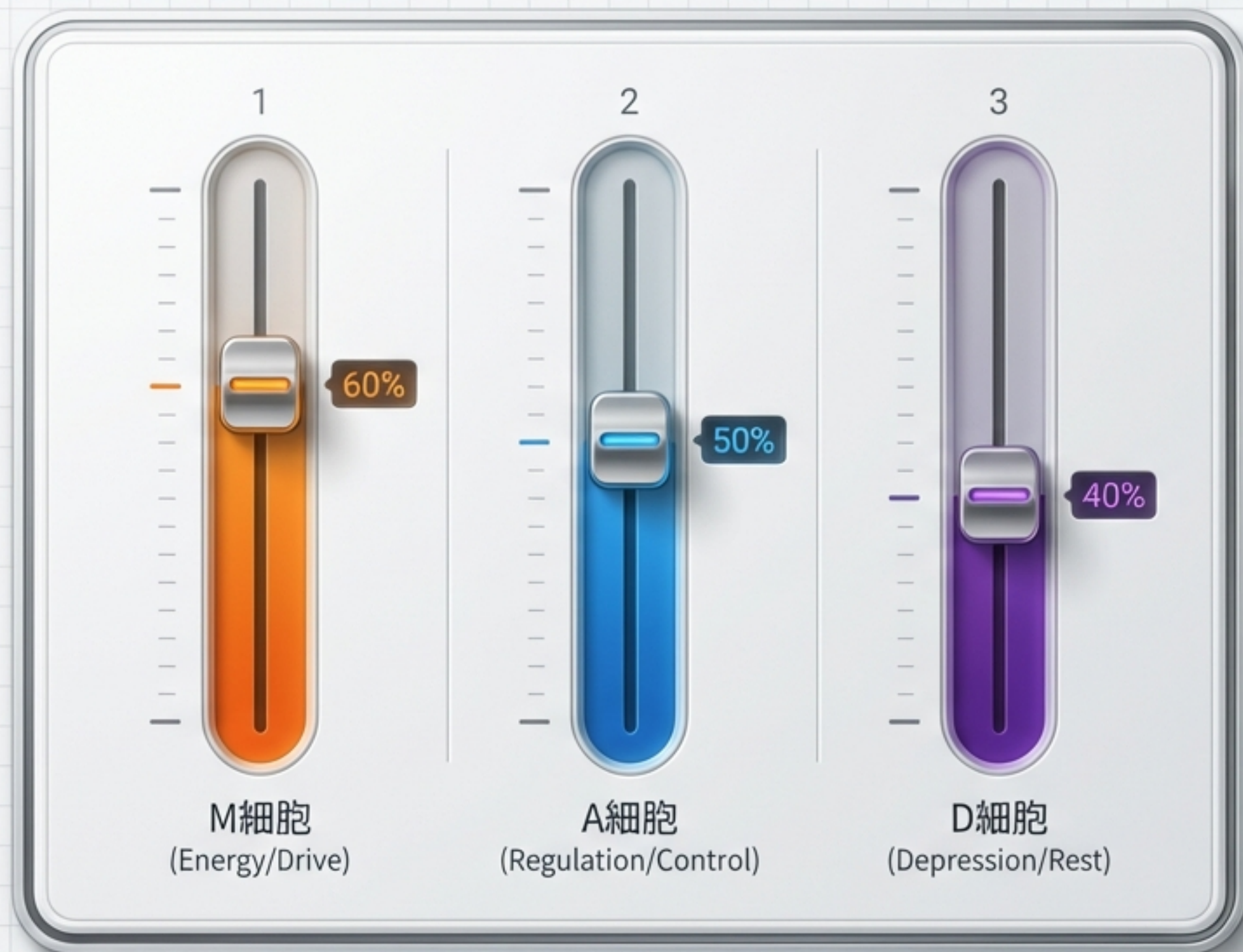


# 細胞分布パターン (M・A・D) が紐解く 気質と精神病理

細胞のイコライザーが決定する  
精神病理とライフステージ



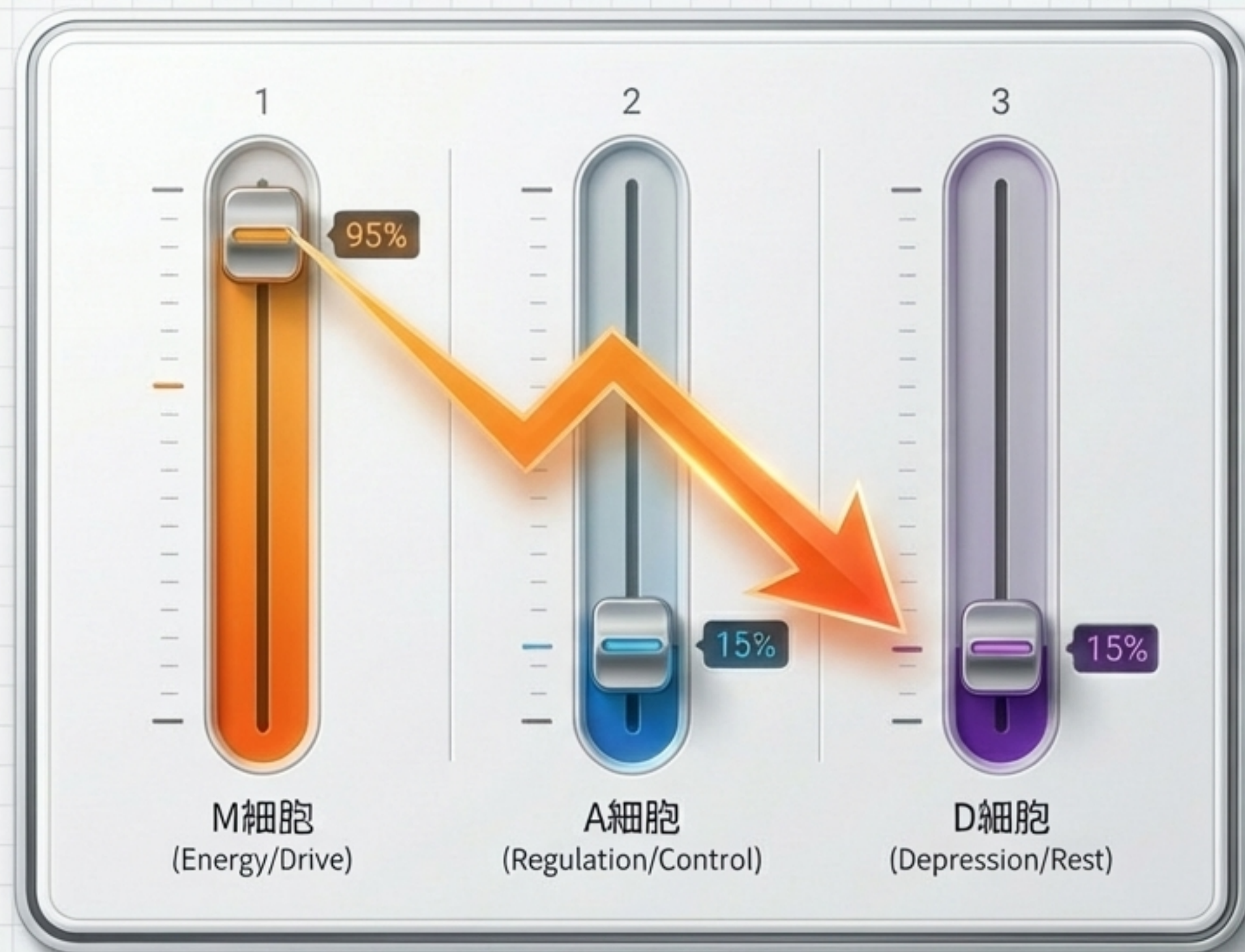
# 精神状態を決定する「細胞のイコライザー」



細胞の分布パターン（M・A・Dの比率）が、個人の性格のベースライン（気質）を決定する。

このイコライザーのバランスが極端に偏る、あるいは特定の細胞が「燃え尽きる」ことで、特定の精神疾患への脆弱性が生じる。

# 循環気質・発揚気質：極端なエネルギー放出とその反動



## コア特性

非常にエネルギーッシュで活動的。

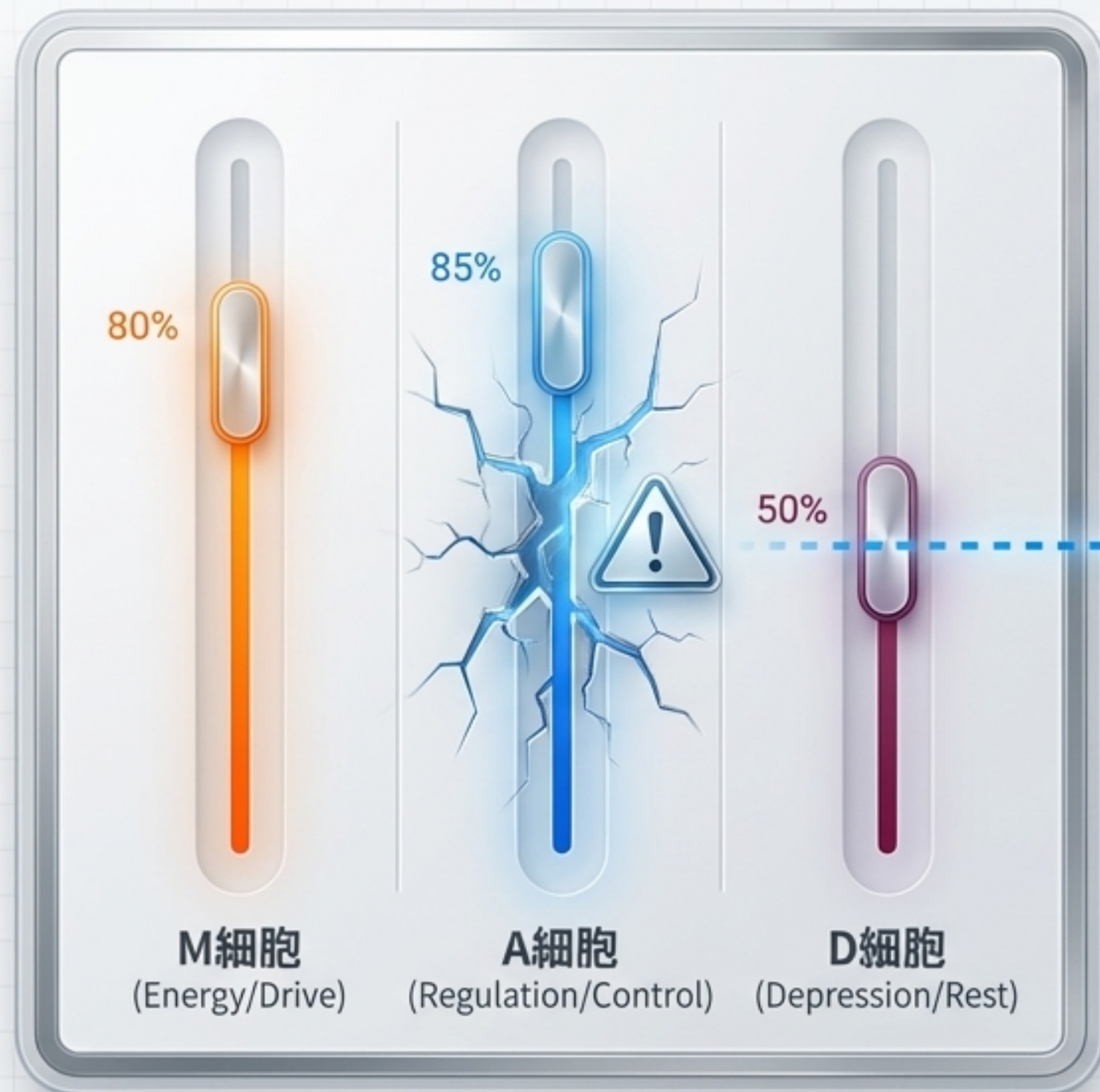
## 発症メカニズム

高いエネルギーで活動が続けるが、エネルギーが枯渇した際の「ダウン時の落差」が非常に激しい。

## 病理・リスク

典型的な「躁うつ病型」になりやすい。

# 執着気質：強い責任感と「燃え尽き」による複合症状



## コア特性

仕事熱心で、極めて責任感が強い。

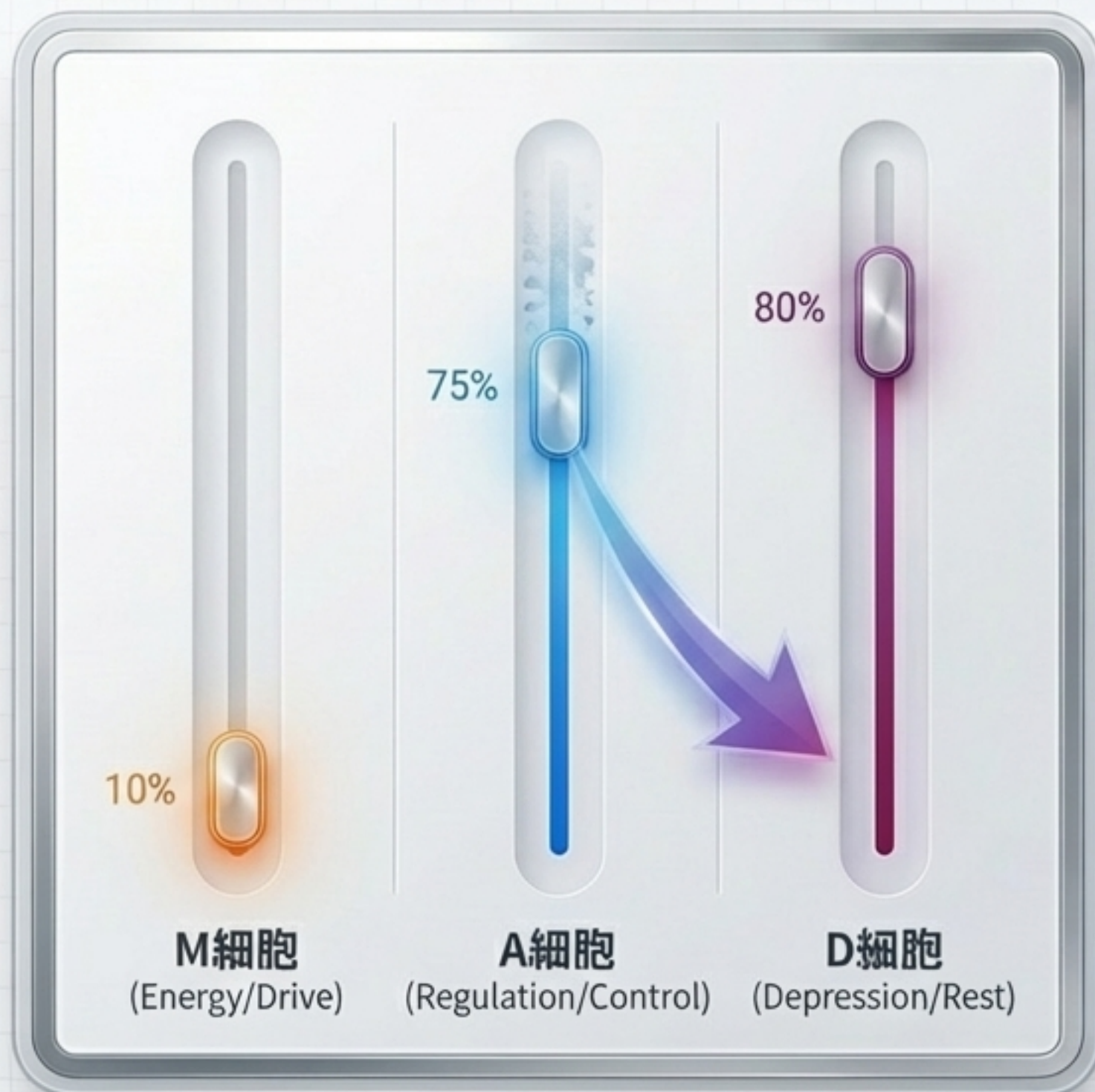
## 発症メカニズム

限界まで自己をコントロールして活動を続けるが、調整役の細胞が「燃え尽きる (Burnout)」ことで崩壊する。

## 病理・リスク

燃え尽きた後に、強迫症状とうつ状態が併発しやすい。

# メランコリー気質：誠実さの裏に潜む「D優位」への転落



## コア特性

誠実で几帳面。派手な躁状態にはならない。

## 発症メカニズム

普段はA細胞がD細胞をコントロールしているが、A細胞が燃え尽きると一気に制御不能に陥る。

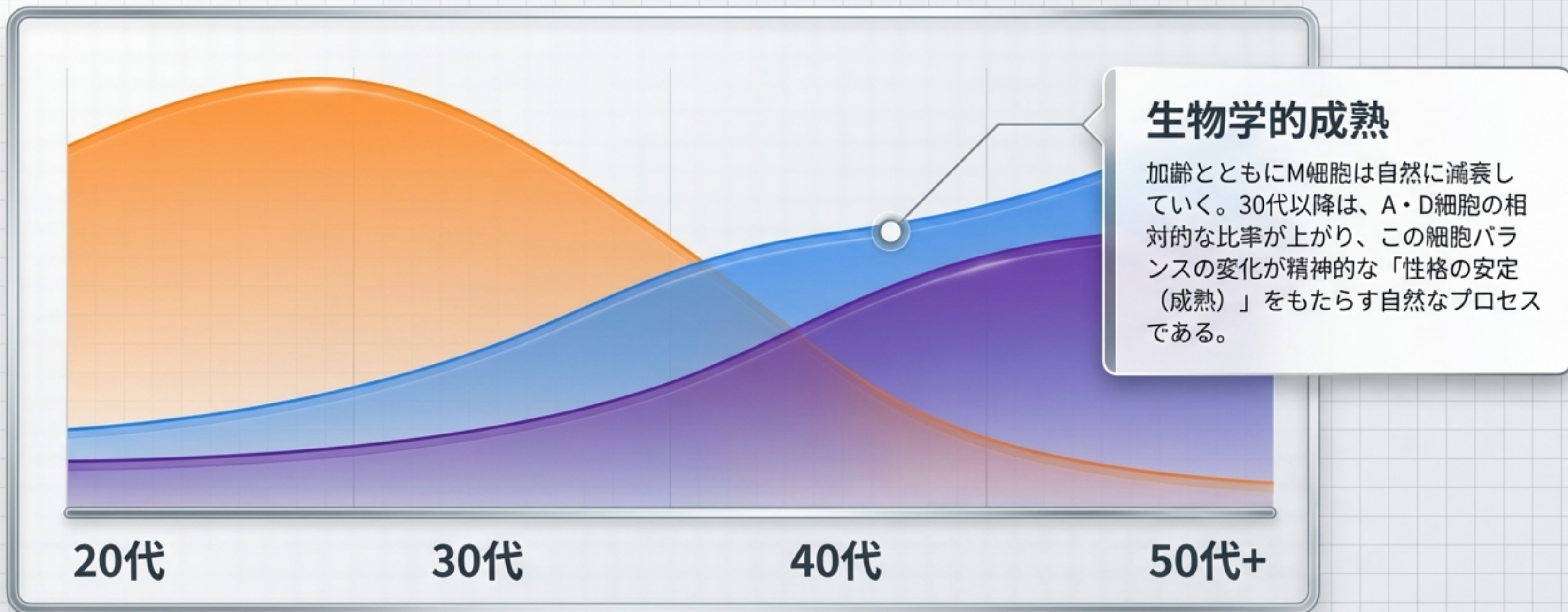
## 病理・リスク

D細胞優位の強うつ状態、すなわち昔から言われる「典型的なうつ病」を発症する。

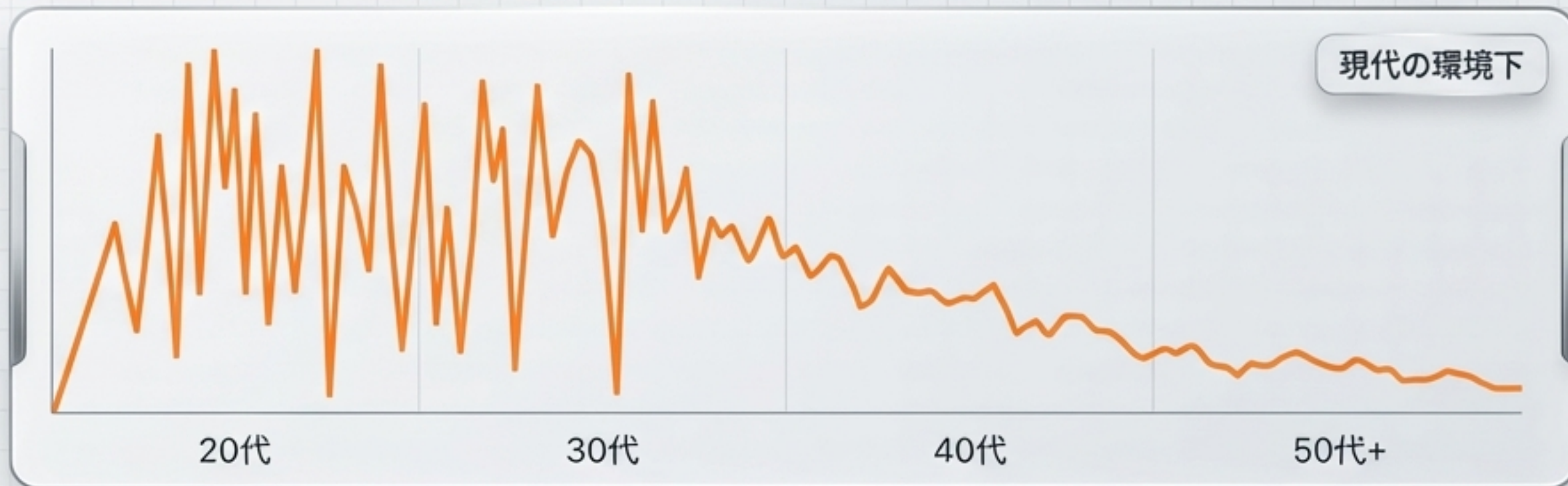
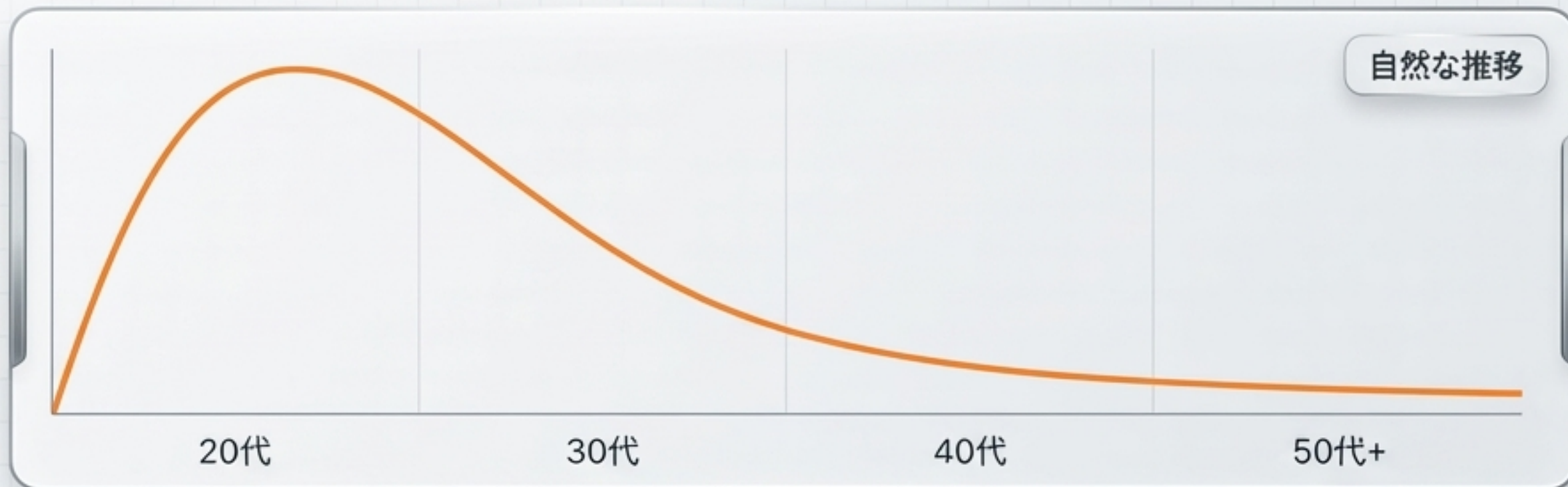
# 診断マトリックス：細胞比率と発症メカニズムの統合

気質類型	細胞分布	性格特性	崩壊のトリガー	発症リスク
循環気質・発揚気質		エネルギッシュ	エネルギー枯渇	典型的な躁うつ病I型
執着気質		仕事熱心・責任感	過労による燃え尽き	強迫症状とうつ状態の併発
メランコリー気質		誠実・几帳面	A細胞の燃え尽き	典型的なうつ病(D優位)

# ライフステージと細胞の自然遷移： 30代以降の「成熟」



# 現代の病理：M細胞活性期における過剰刺激と複雑化



## 環境との衝突

現代の若者は、M細胞が最も活発な時期に「過剰な環境刺激」にさらされている。

## 結果

これにより感情の揺れが異常なほど激しくなり、自然な減衰・成熟プロセスが阻害される。結果として、病像が極めて複雑化しやすい。

# 精神病理を解説する3つの原則



## 生物学的基盤

個人の性格と精神疾患のリスクは、M・A・D細胞の初期分布（イコライザー）によって決定される。



## 発症のメカニズム

病理は単なる気分の落ち込みではなく、調整役（A細胞）の「燃え尽き」やエネルギー（M細胞）の極端な枯渇という物理的限界によって引き起こされる。



## 環境による複雑化

M細胞の自然減衰による「成熟」プロセスは、現代の過剰刺激によって乱されており、若年層における病像の複雑化を招いている。